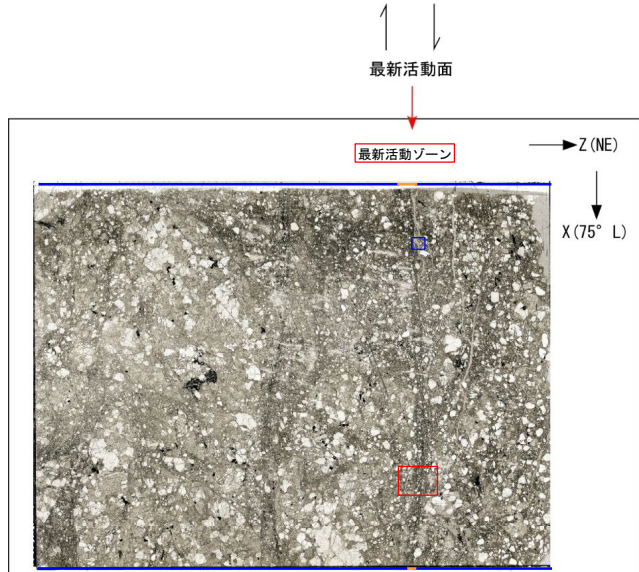
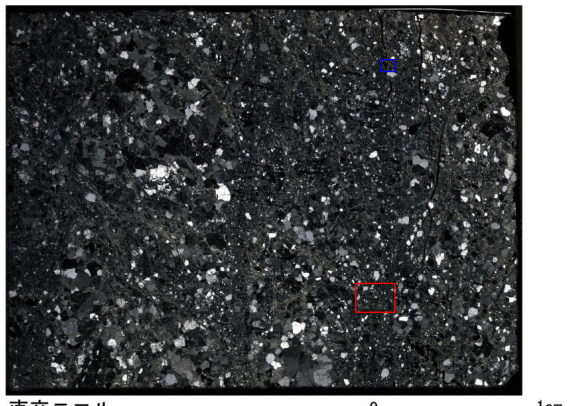


# H24-D1-1 深度90.26~90.84m f-d1-1-10破碎帯 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 岩片量は漸移的に変化する。(図1)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)

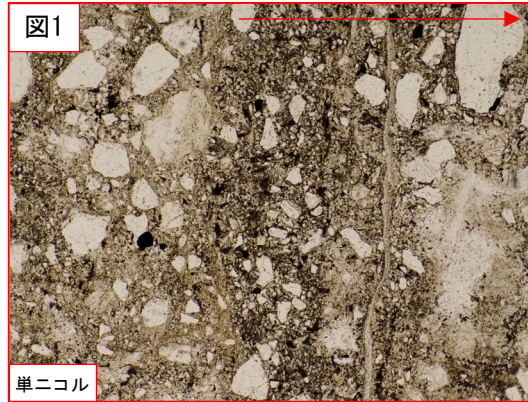


単ニコル



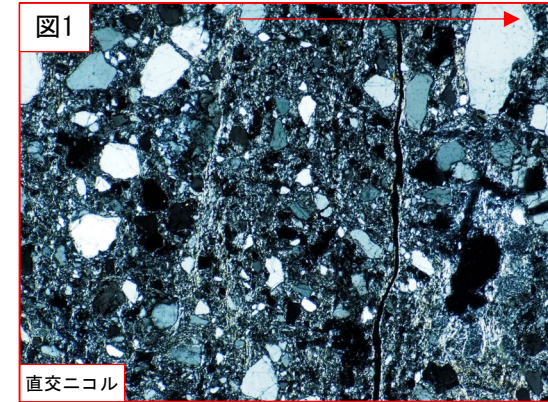
直交ニコル

凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



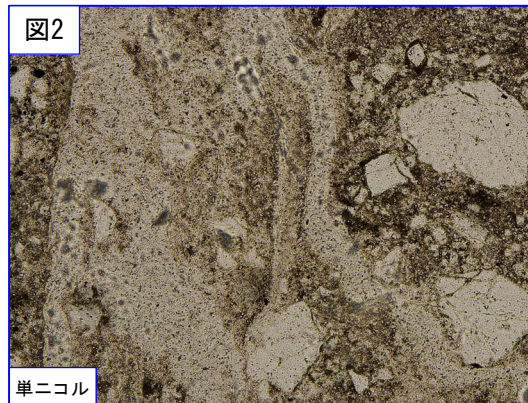
単ニコル

赤矢印: 岩片量が漸移的に増加する。 500 μm



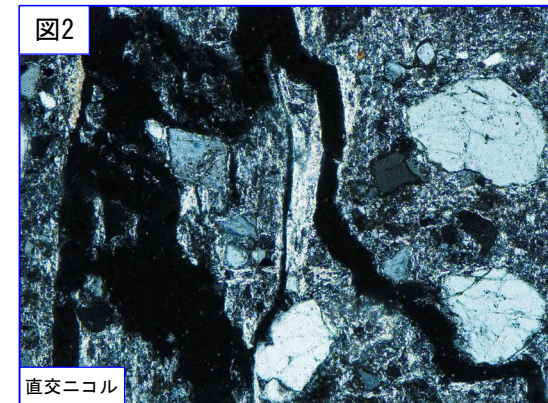
直交ニコル

500 μm



単ニコル

200 μm



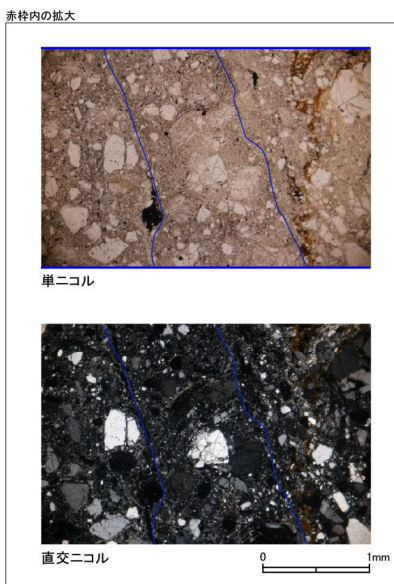
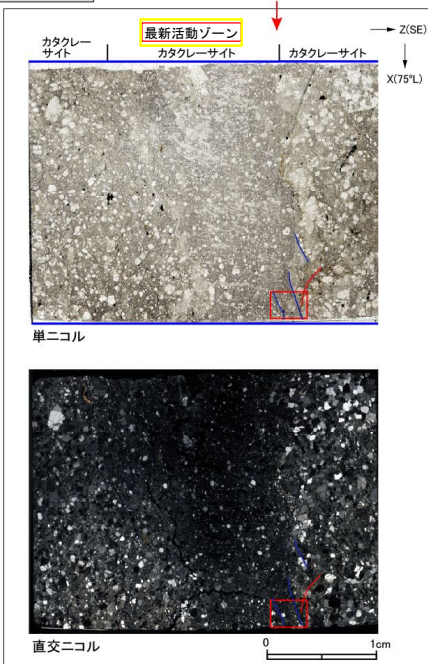
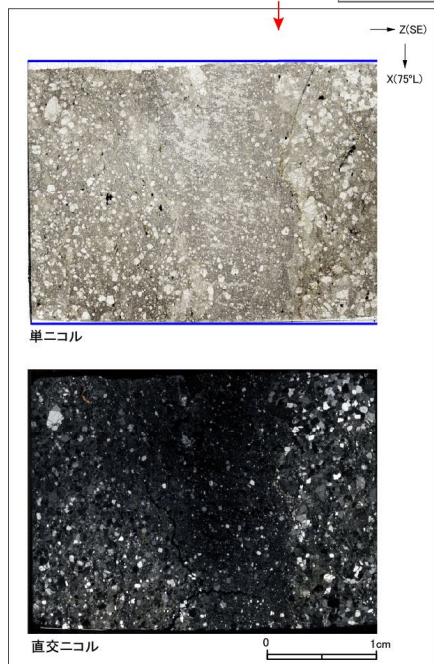
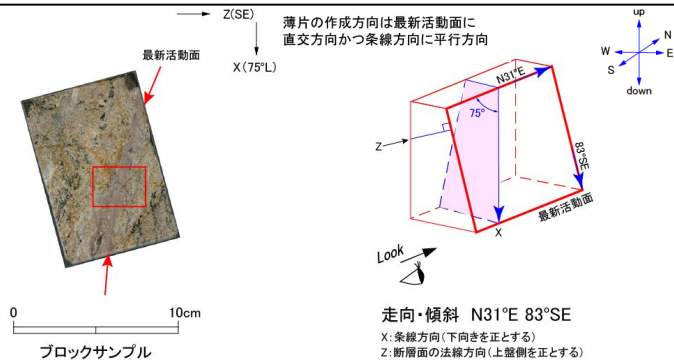
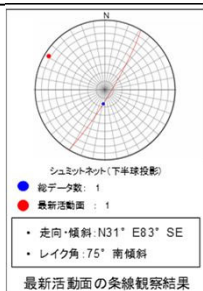
直交ニコル

200 μm

# H24-D1-1 深度91.26~91.52m f-d1-1-11破碎帯 (1/3)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度91.31m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

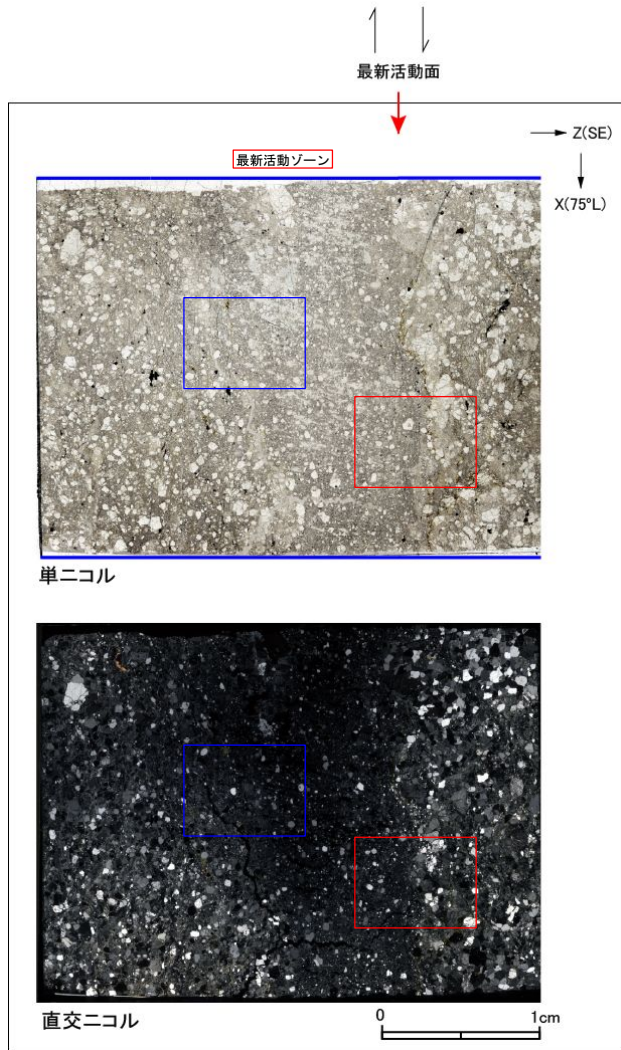
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



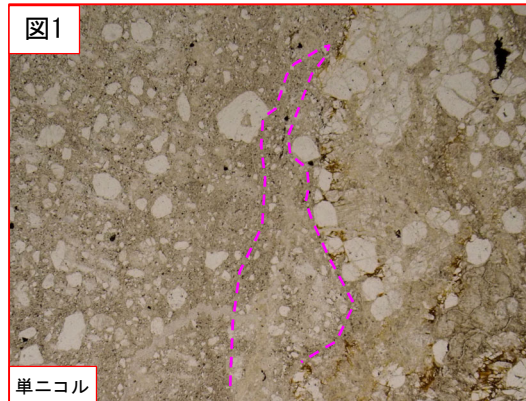
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H24-D1-1 深度91.26~91.52m f-d1-1-11破碎帯 (2/3)

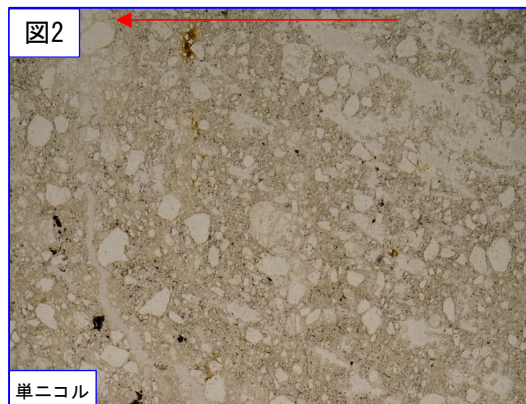
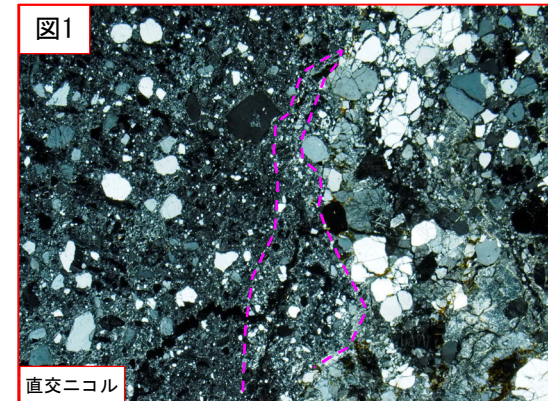
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
  - 粘土鉱物は漸移的に変化する。(図2)



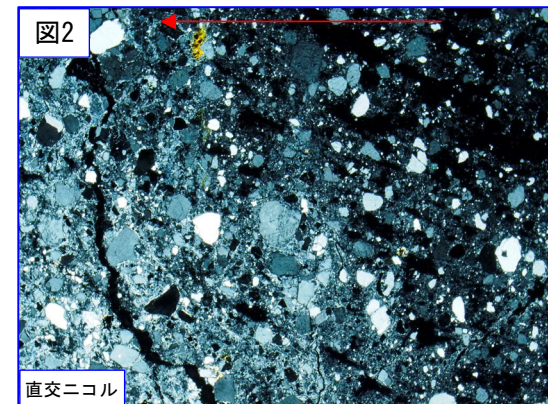
凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

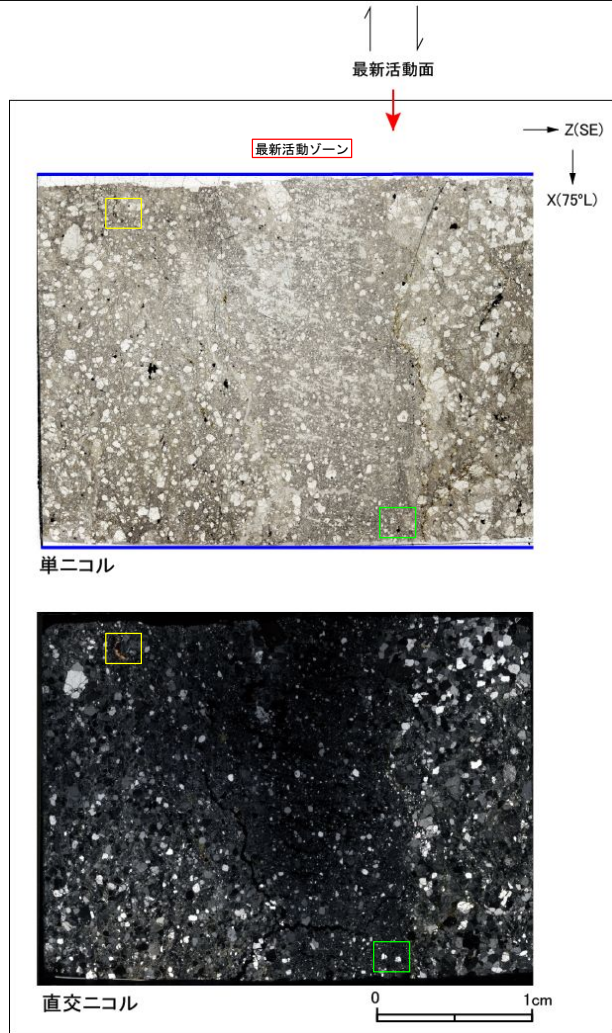


赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に増加する。

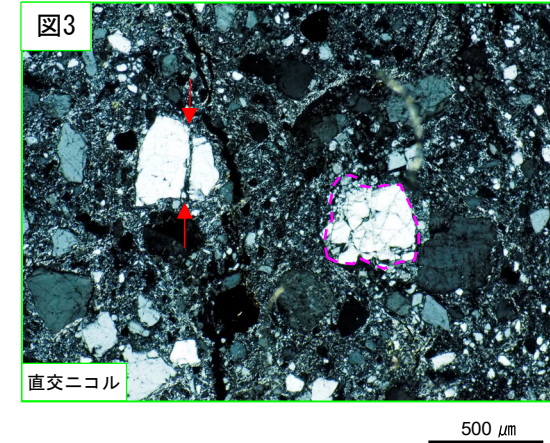
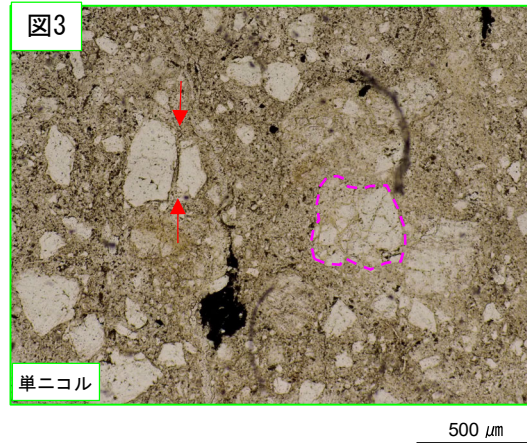


# H24-D1-1 深度91.26~91.52m f-d1-1-11破碎帯 (3/3)

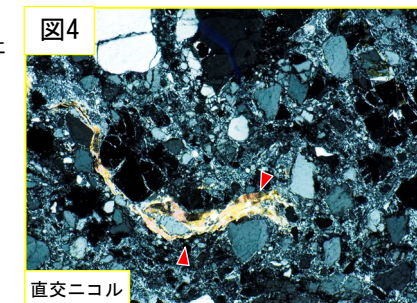
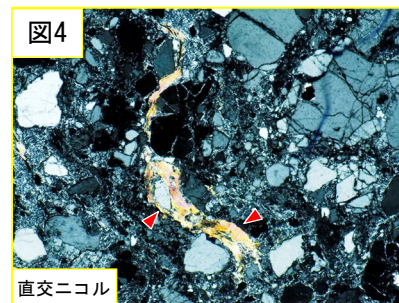
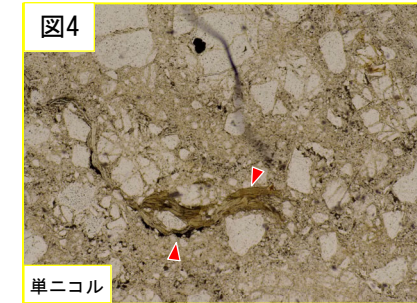
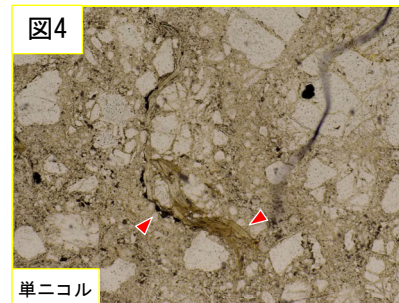
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。  
 破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



→  
 ステージを反時計回りに  
 約45度回転

赤矢印は屈曲箇所を示す。 500 μm

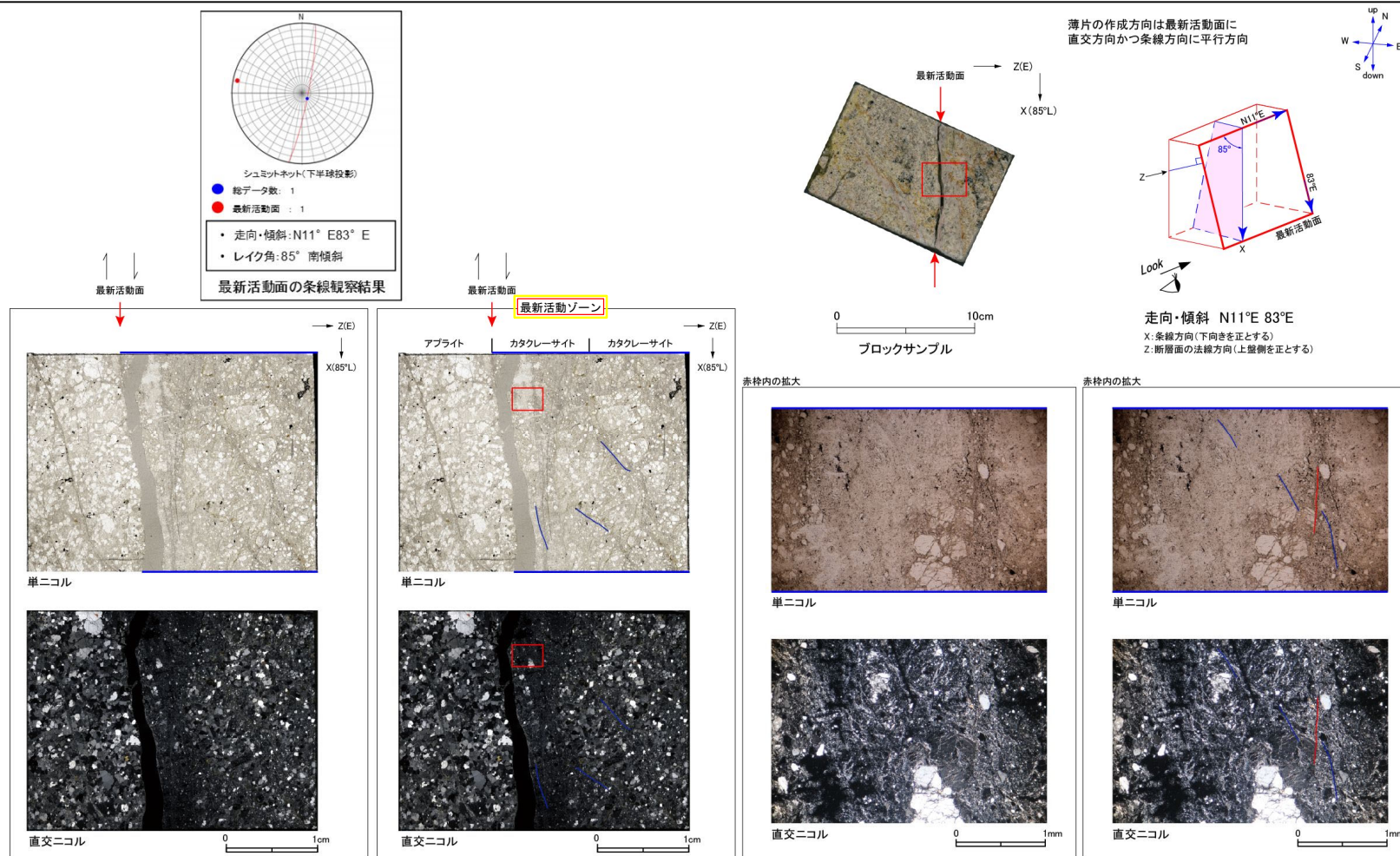
赤矢印は屈曲箇所を示す。 500 μm

補足3-75

## H24-D1-1 深度93.12~93.24m 非モデル化破碎部 (1/2)

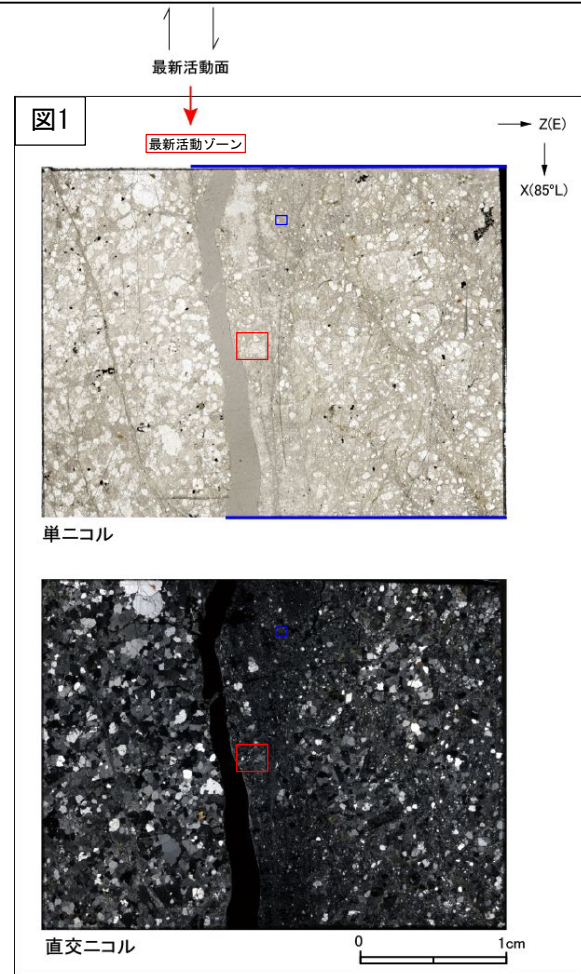
・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度93.20m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 組織は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

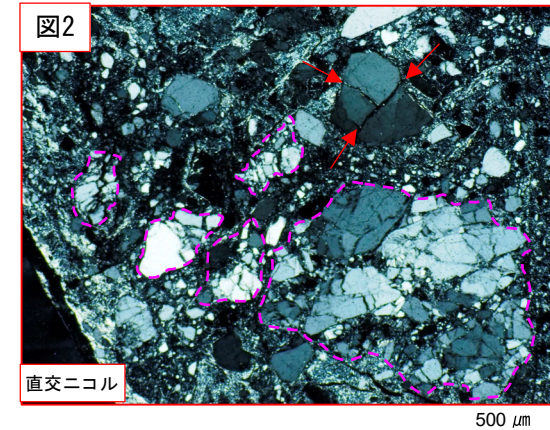
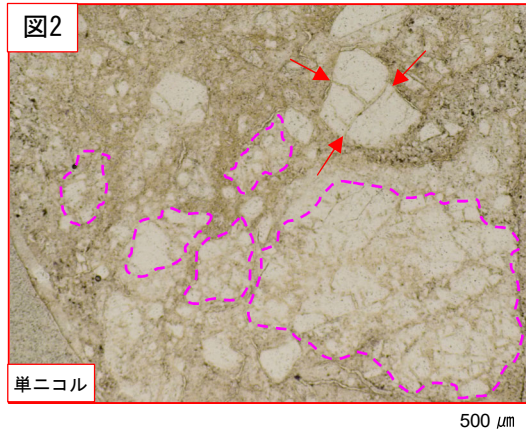


## H24-D1-1 深度93.12~93.24m 非モデル化破碎部 (2/2)

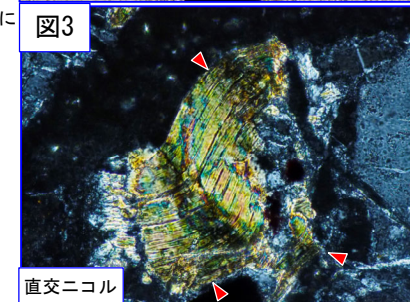
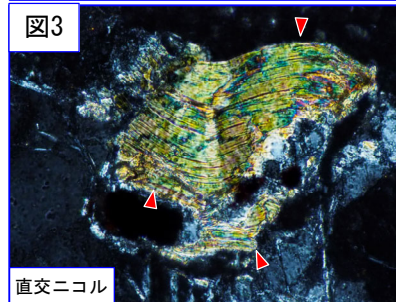
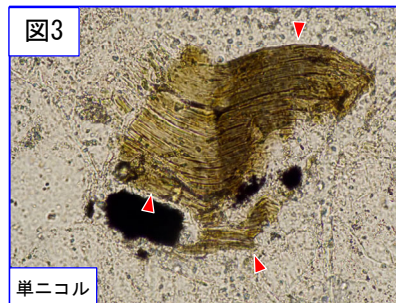
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。  
 破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



→  
 ステージを反時計回りに  
 約45度回転

赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

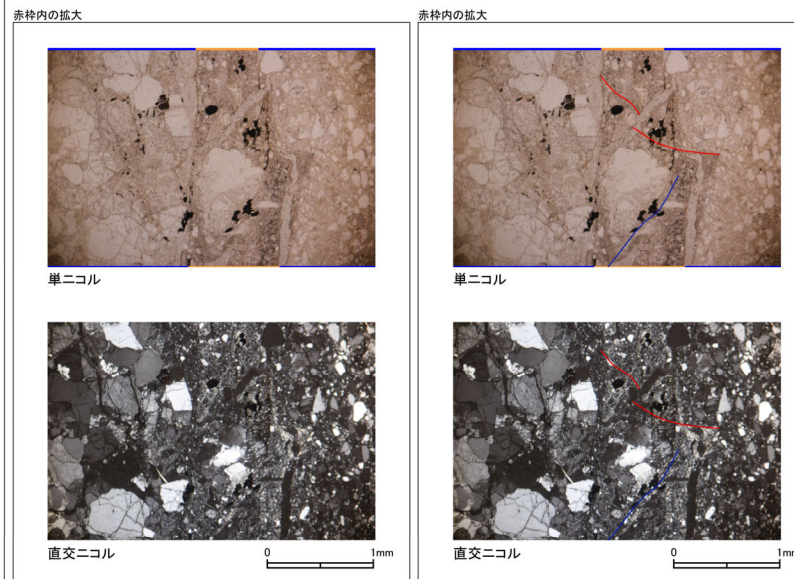
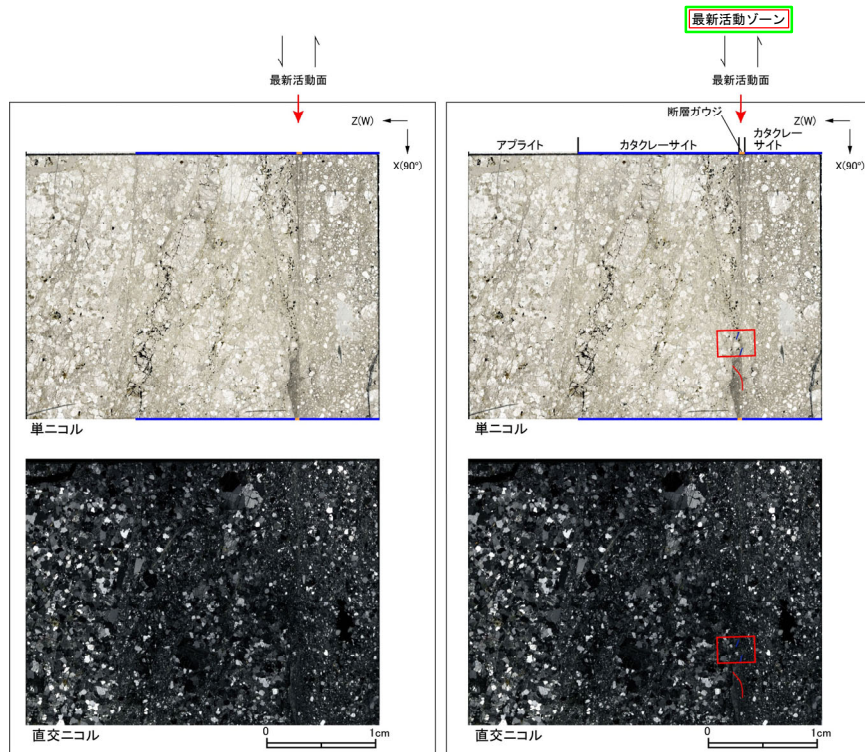
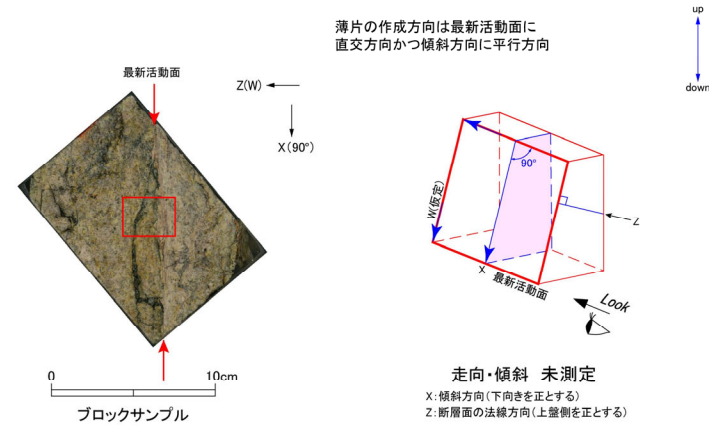
赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

# H24-D1-1 深度99.68~99.71m 非モデル化破碎部 (1/2)

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度99.70m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区別の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

走向・傾斜データなし

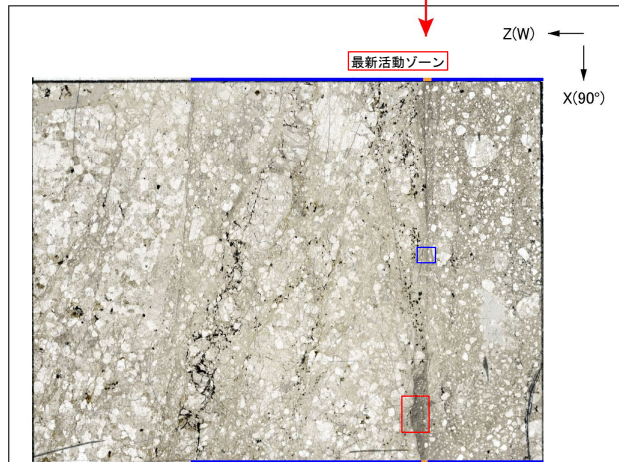


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

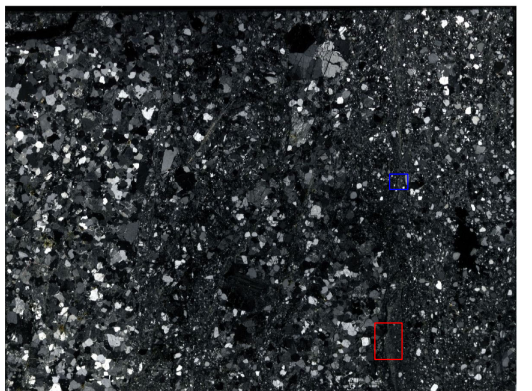
## H24-D1-1 深度99.68~99.71m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

最新活動面

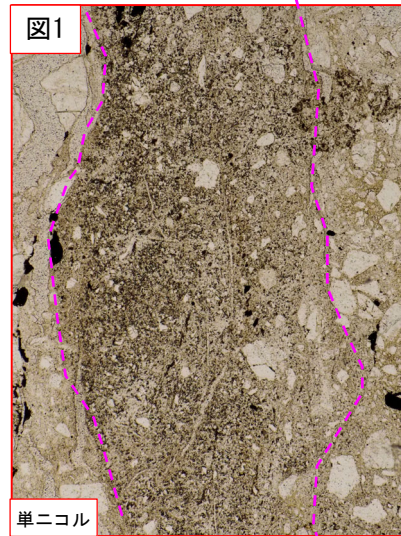


単ニコル



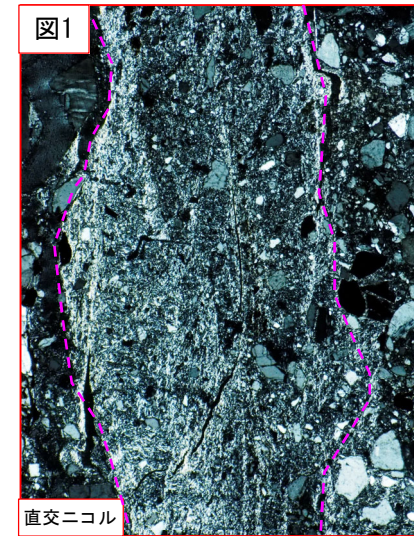
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト



単ニコル

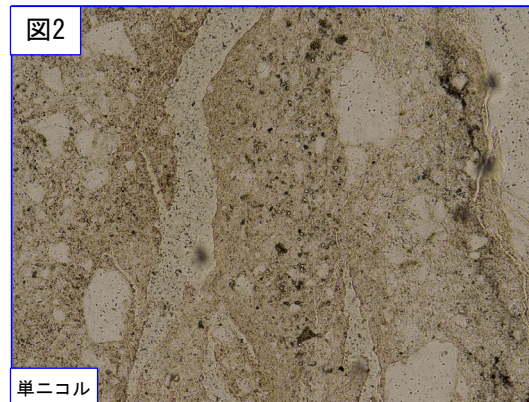
500 μm



直交ニコル

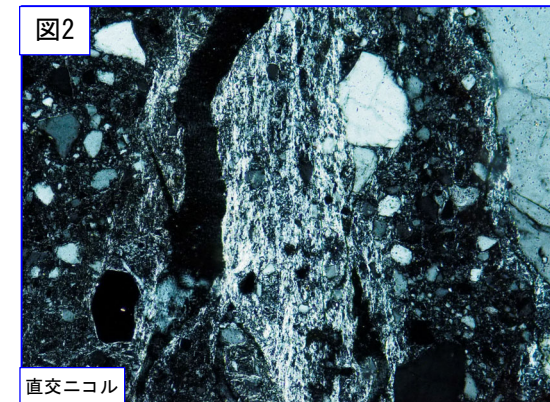
500 μm

破線は帯状で直線的な範囲を示す。



単ニコル

200 μm



直交ニコル

200 μm



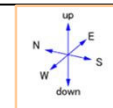
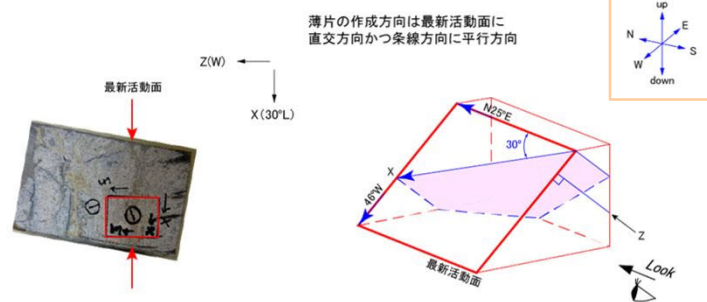
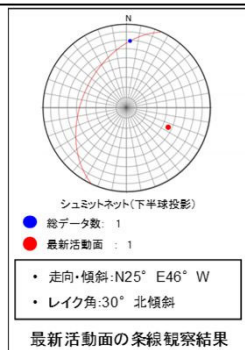
余白

H27-B-1

余白

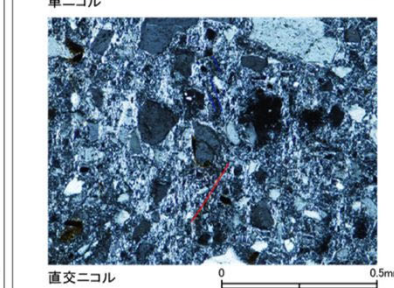
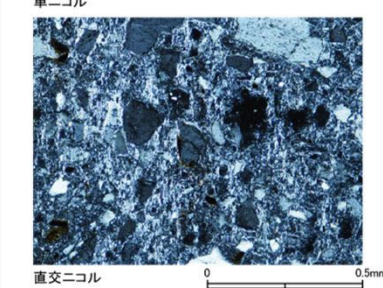
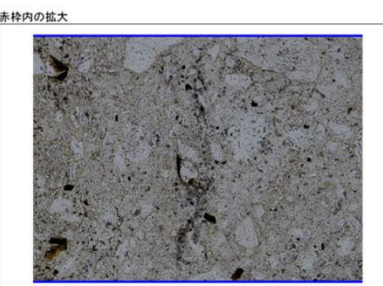
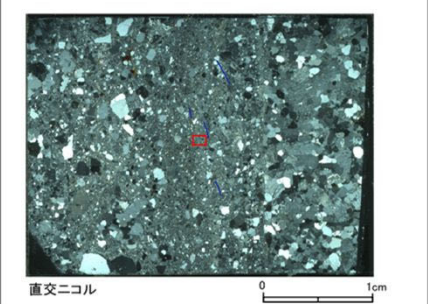
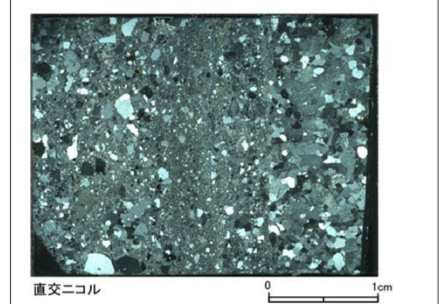
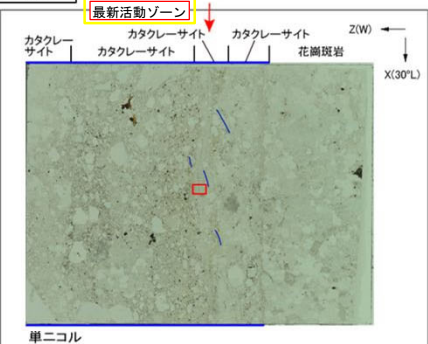
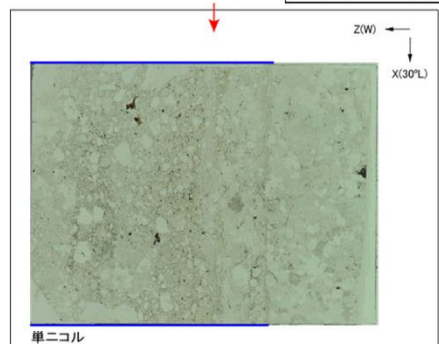
# H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破碎部 (1/3)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.59m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- リングソー状の角礫群が認められる。



0 10cm  
ブロックサンプル

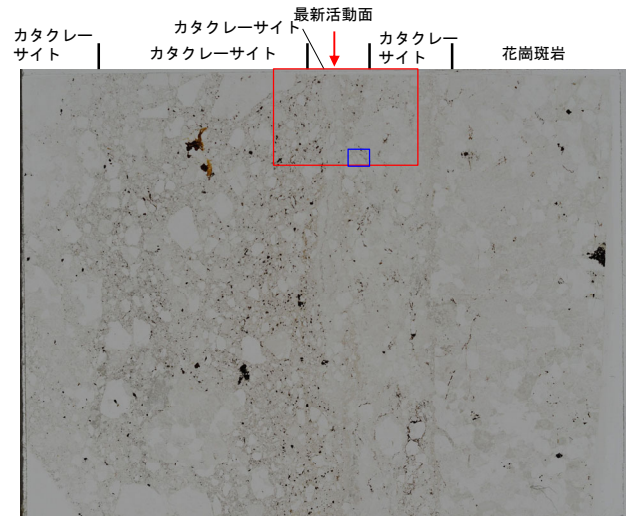
走向・傾斜 N25°E 46°W  
X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上側を正とする)



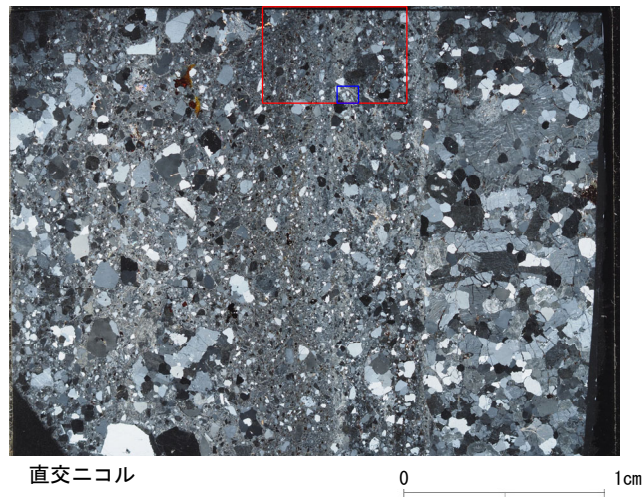
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破碎部 (2/3)

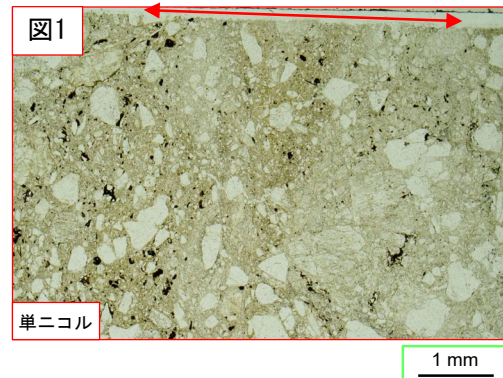
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



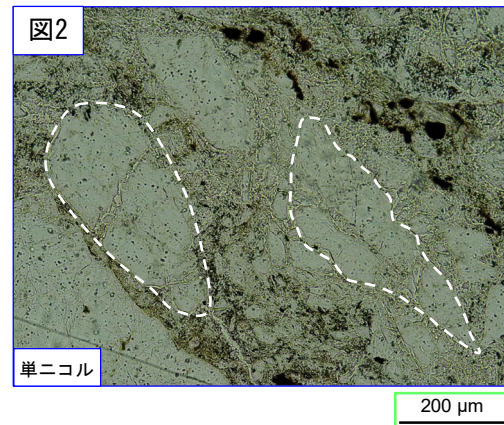
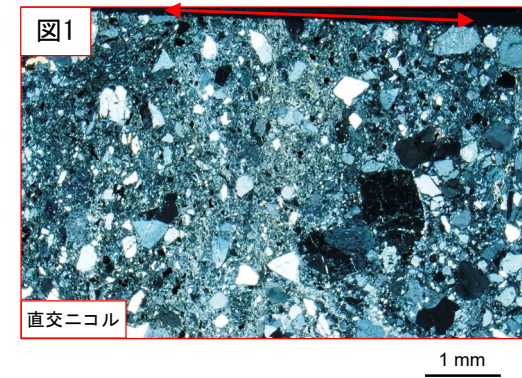
単ニコル



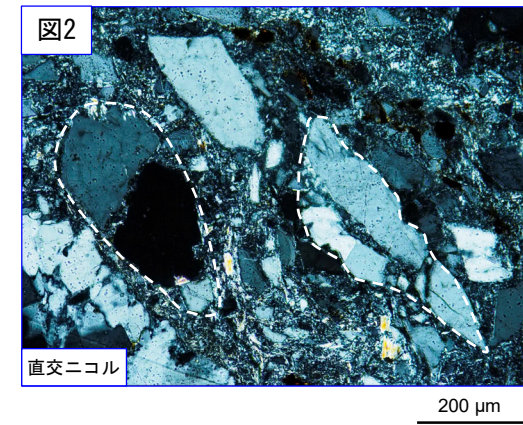
直交ニコル



赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に減少する。

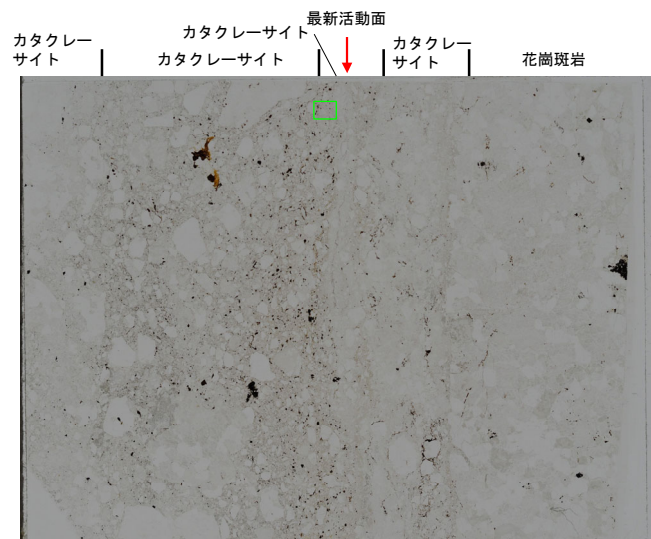


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

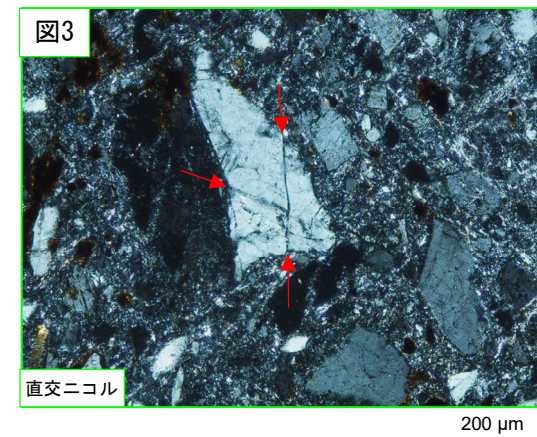
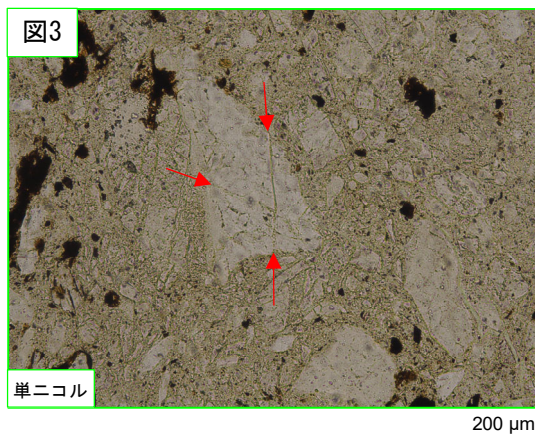


## H27-B-1 深度34.54~34.59m 非モデル化破碎部 (3/3)

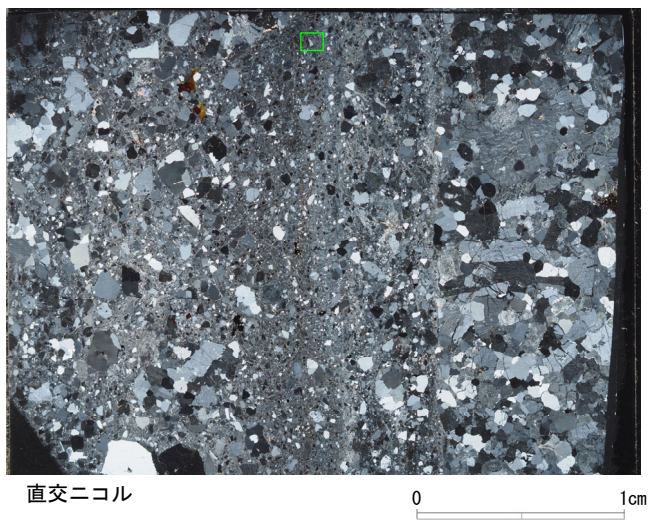
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



単ニコル



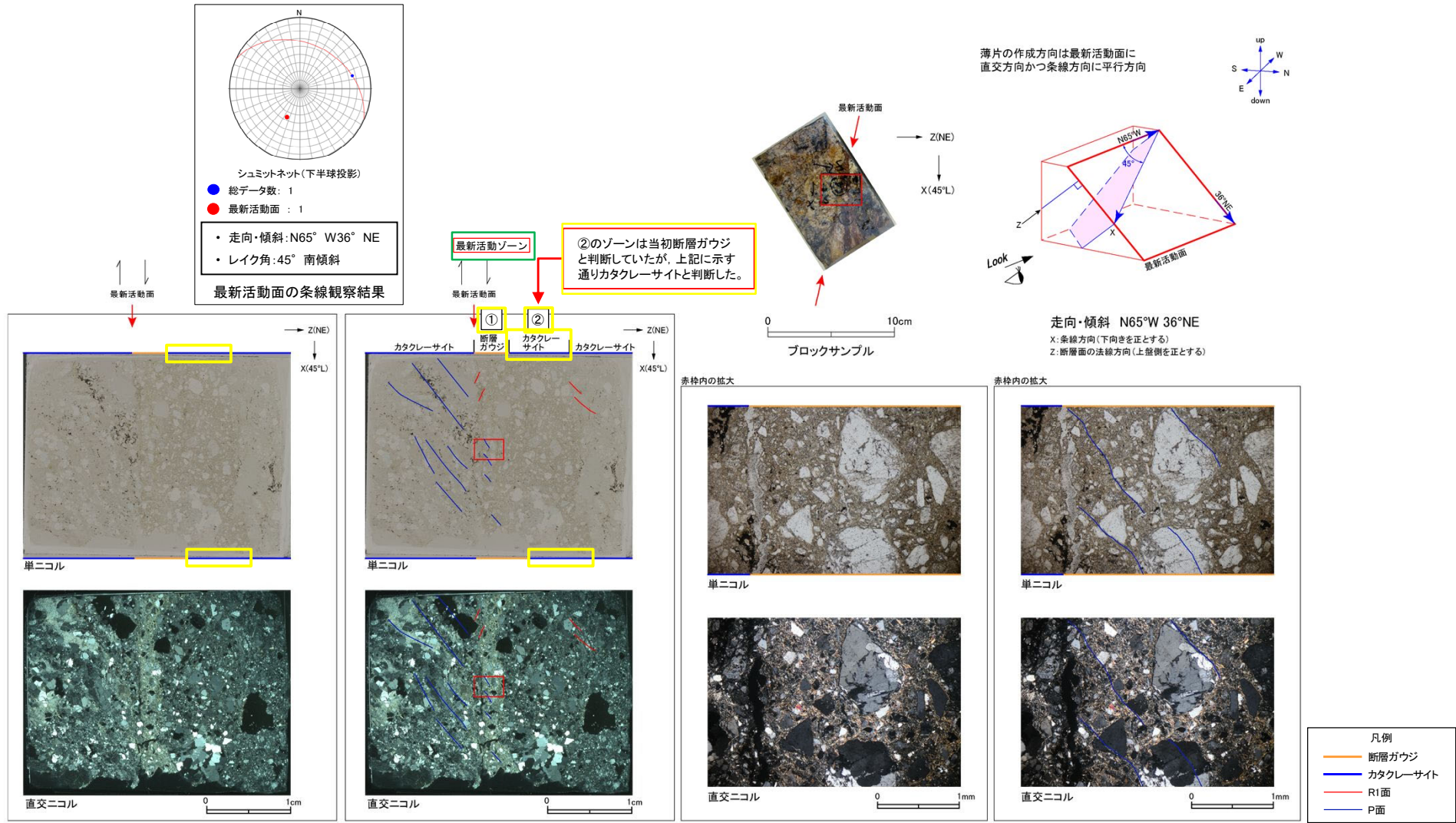
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



## H27-B-1 深度42.41～42.49m 非モデル化破碎部 (1/4)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度42.43m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・断層岩区分については、薄片の中で細粒化しており、粘土状部が帯状に分布するゾーン(①)を断層ガウジと判断していた。また、その断層ガウジのゾーンと単ニコルで一連に見える細粒化したゾーン(②)についても断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、①のゾーン(最新活動ゾーン)に認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した(88頁)。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 角ばった岩片が多い。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、②のゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した(89頁)。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。

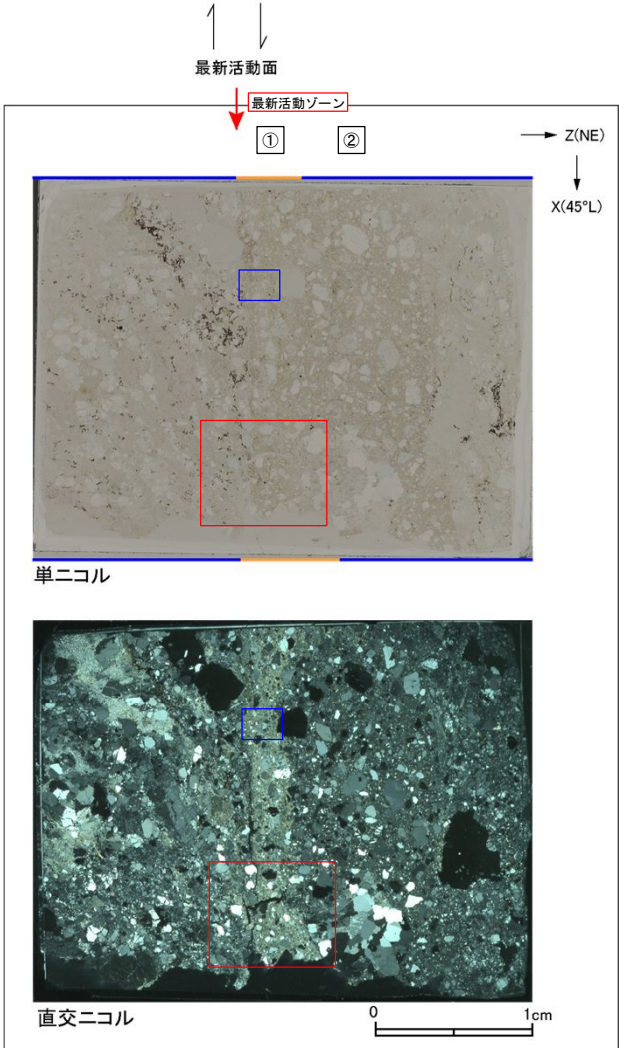
H27-B-1 深度42.41~42.49m 非モデル化破碎部 (2/4)



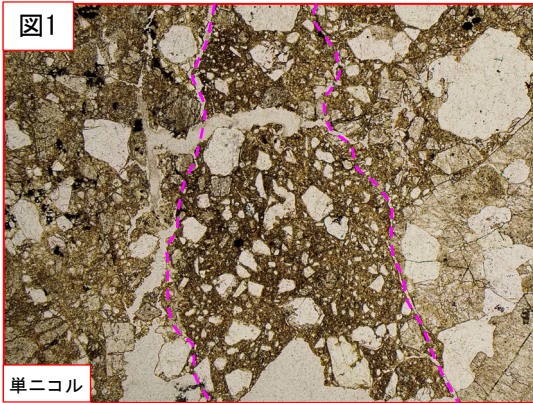


# H27-B-1 深度42.41~42.49m 非モデル化破碎部 (3/4)

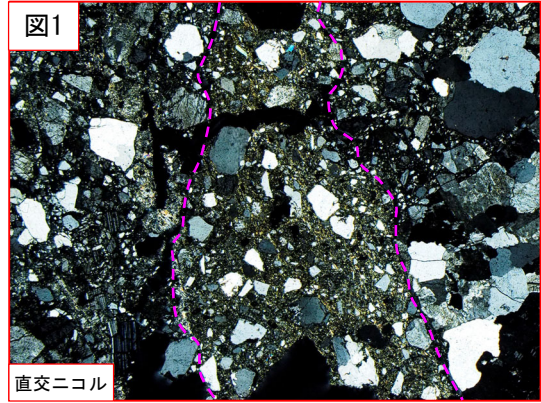
- ・①のゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)



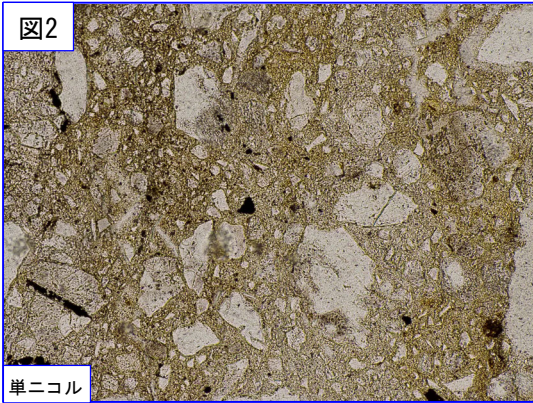
凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



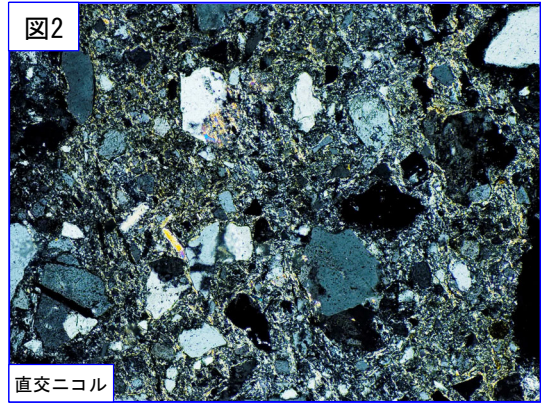
破線は帯状で直線的な範囲を示す。 1 mm



直交ニコル 1 mm



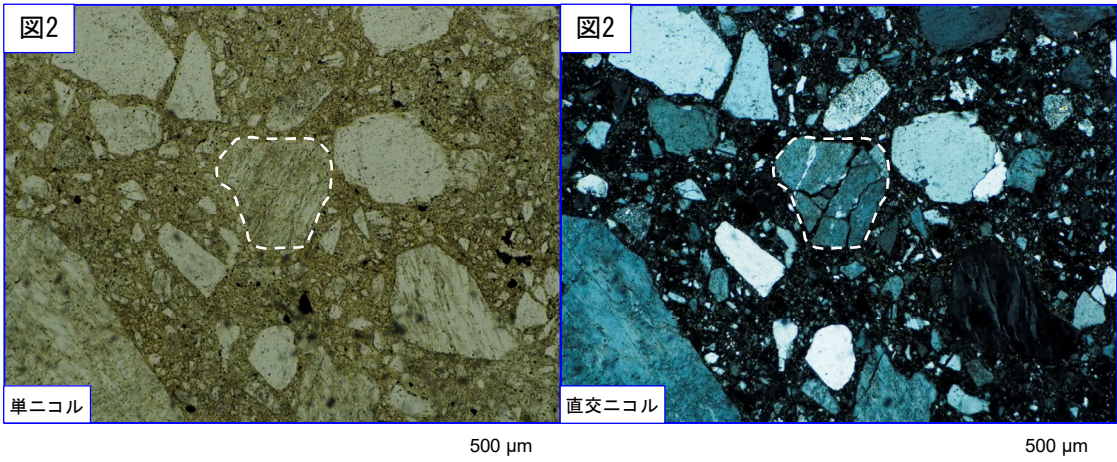
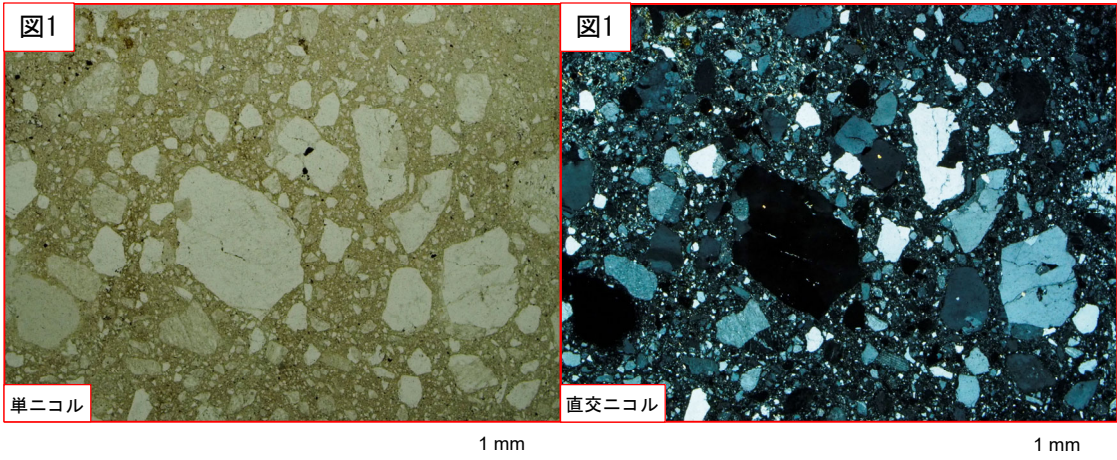
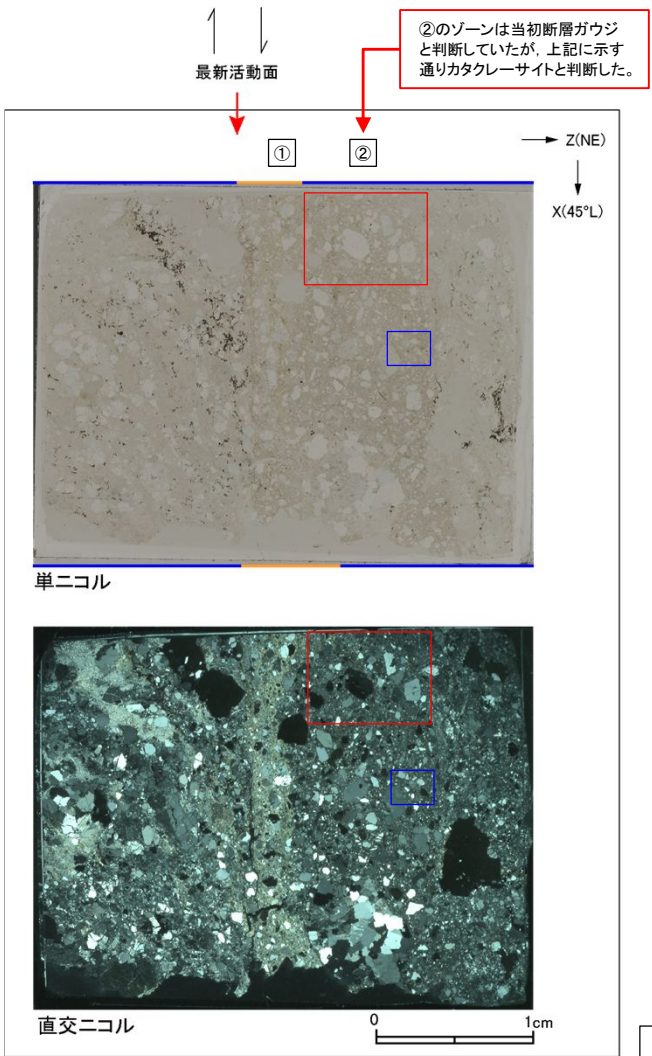
単ニコル 500 µm



直交ニコル 500 µm

# H27-B-1 深度42.41~42.49m 非モデル化破碎部 (4/4)

- ②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1, 2)
  - 角ばった岩片が多い。(図1, 2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



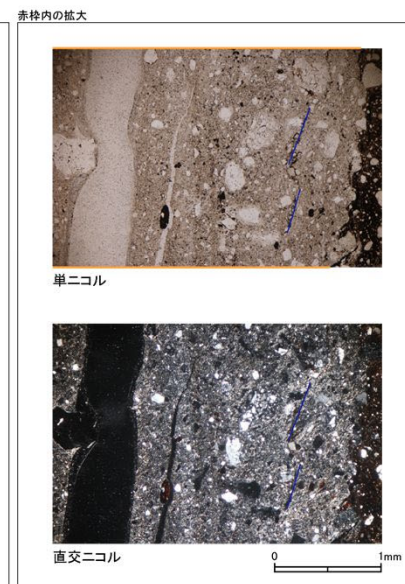
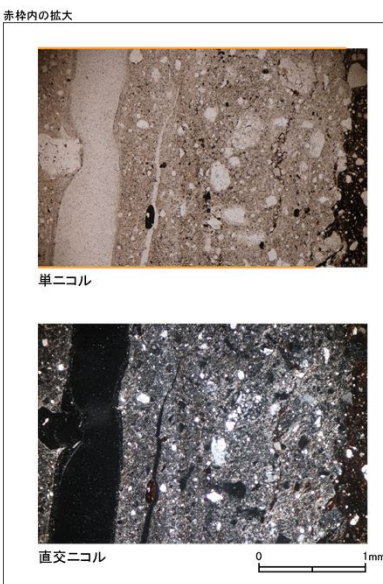
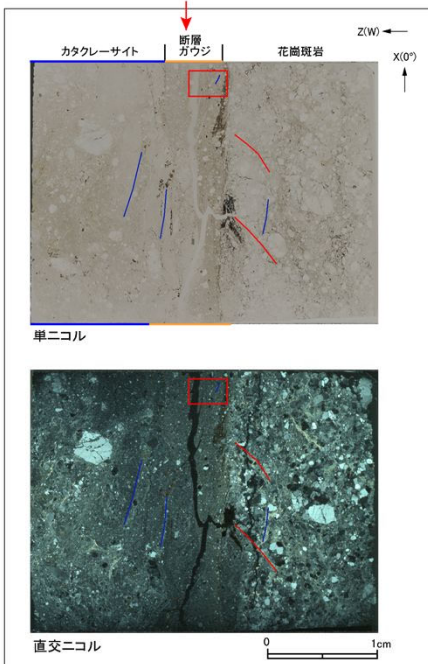
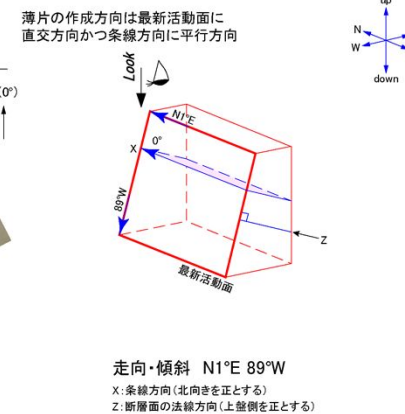
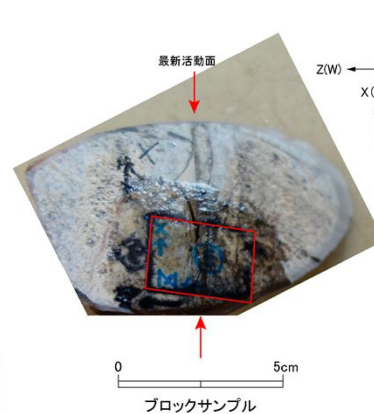
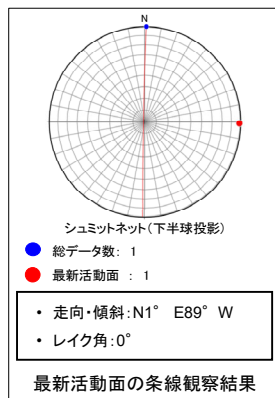
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

# H27-B-1 深度44.24~44.53m 非モデル化破碎部 (1/3)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度44.31m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

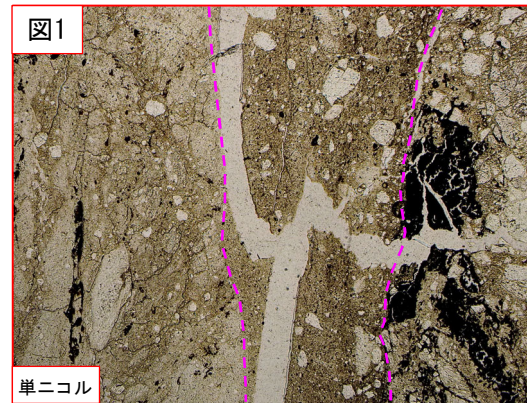
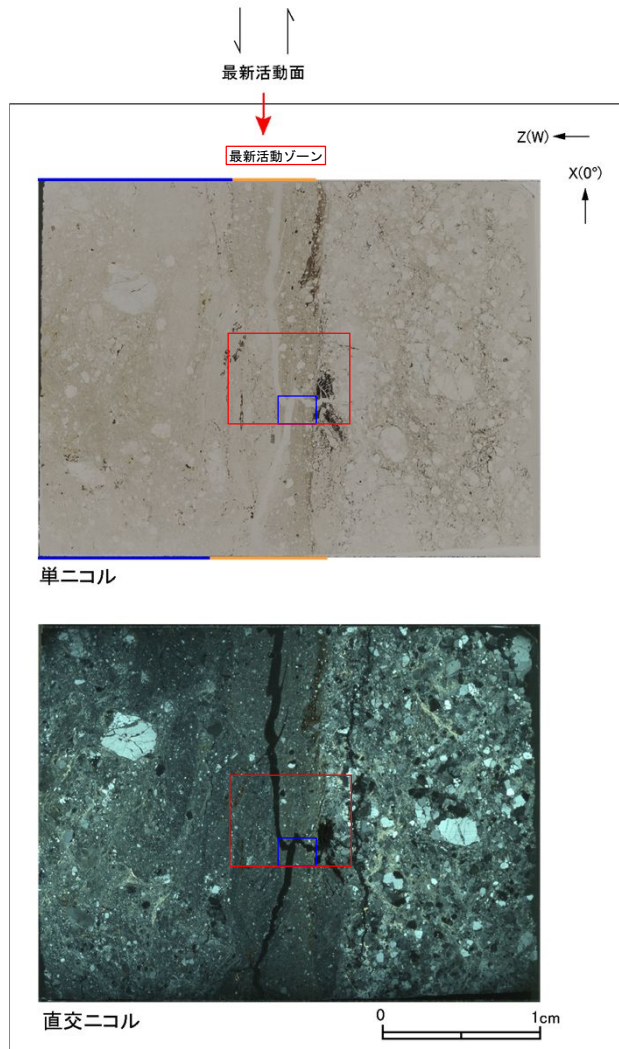
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

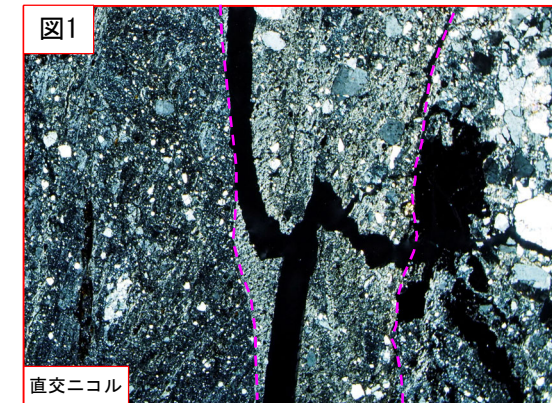
## H27-B-1 深度44.24~44.53m 非モデル化破碎部 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

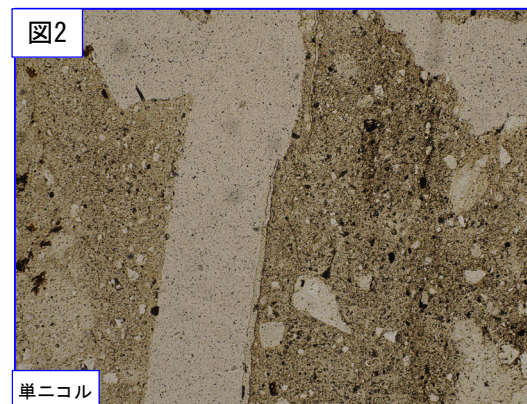


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

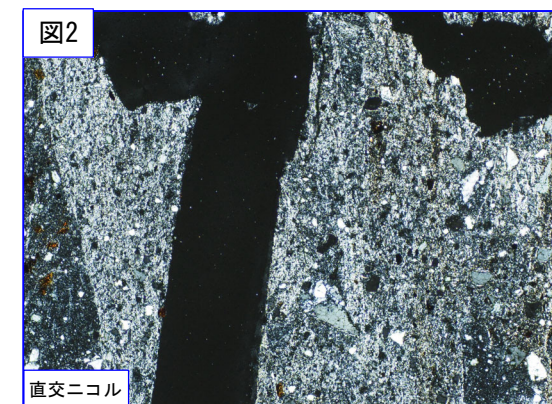
1 mm



1 mm



500 μm

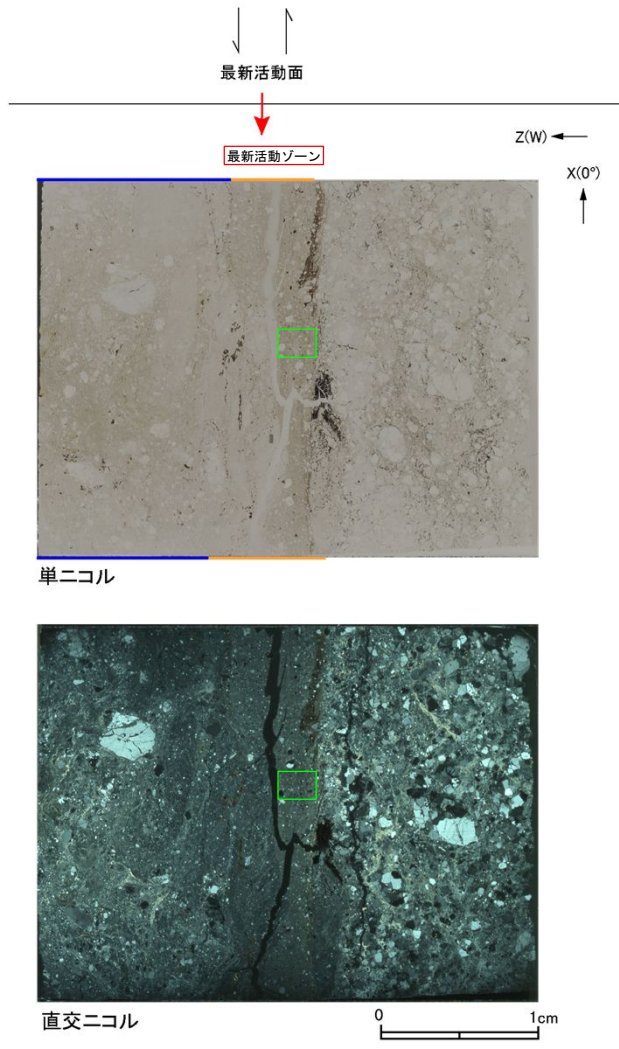


500 μm

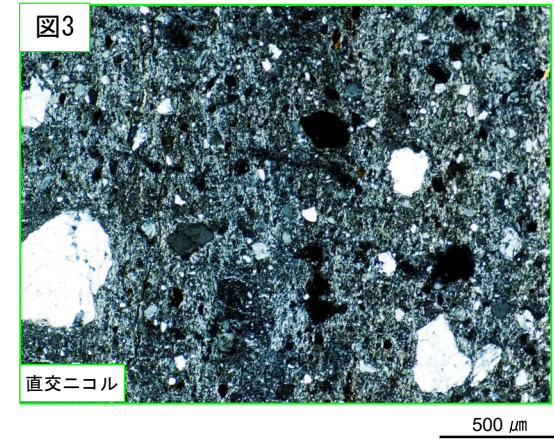
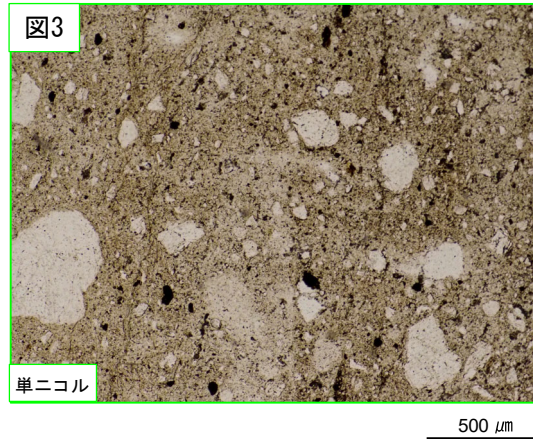
## H27-B-1 深度44.24~44.53m 非モデル化破碎部 (3/3)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)

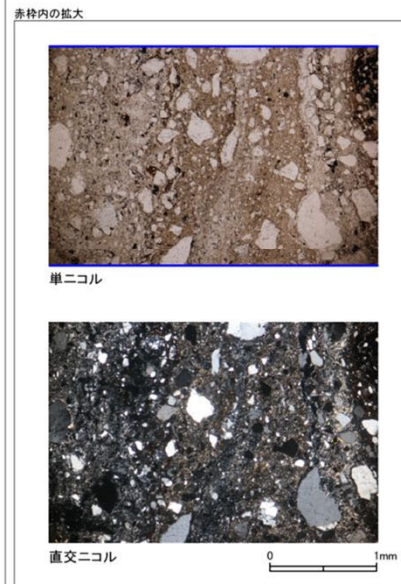
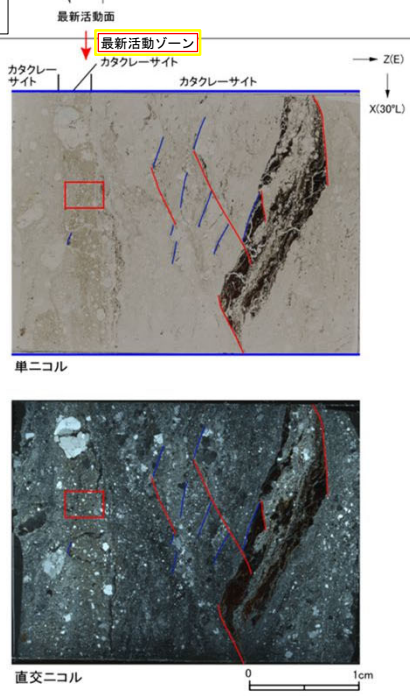
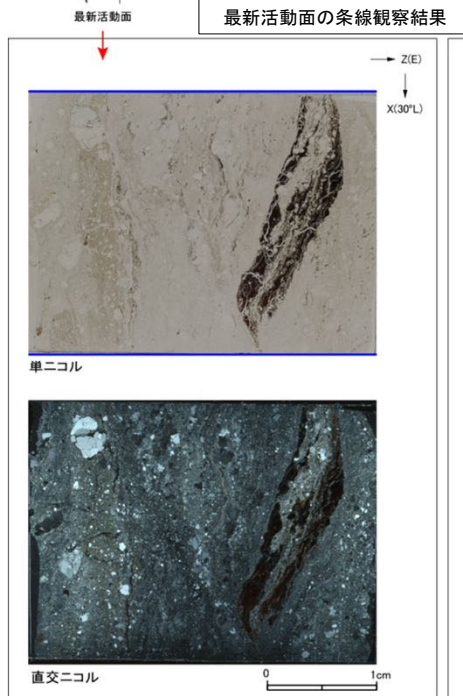
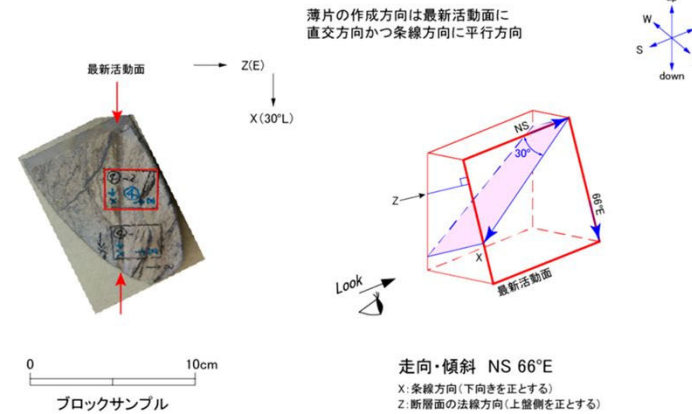
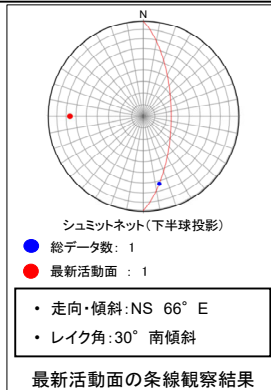


凡例  
 — 断層ガウジ  
 — カタクレーサイト



# H27-B-1 深度44.53~44.83m 非モデル化破碎部 (1/2)

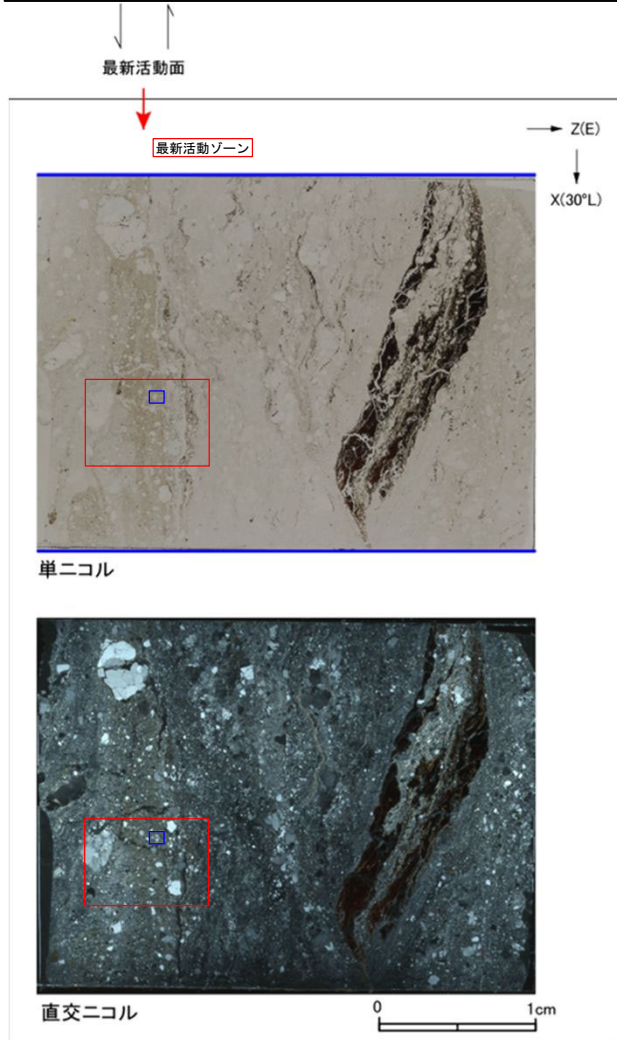
- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度44.66m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 粘土鉱物は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- シグソー状の角礫群が認められる。



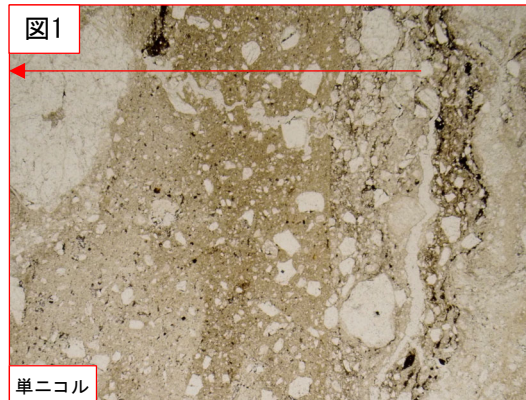
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

## H27-B-1 深度44.53~44.83m 非モデル化破砕部 (2/2)

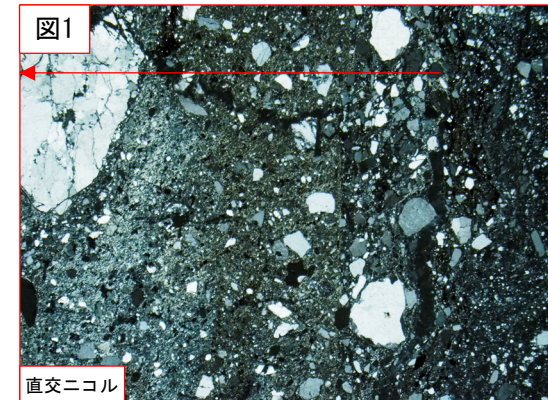
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 粘土鉱物は漸移的に変化する。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



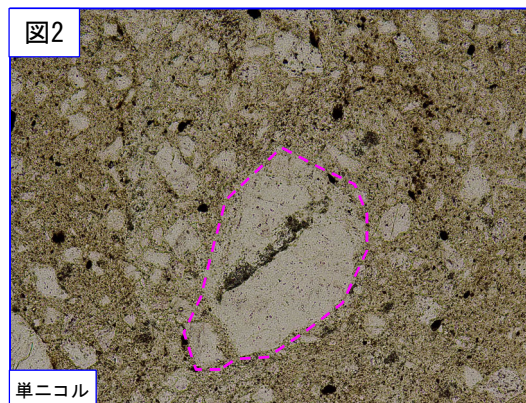
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト



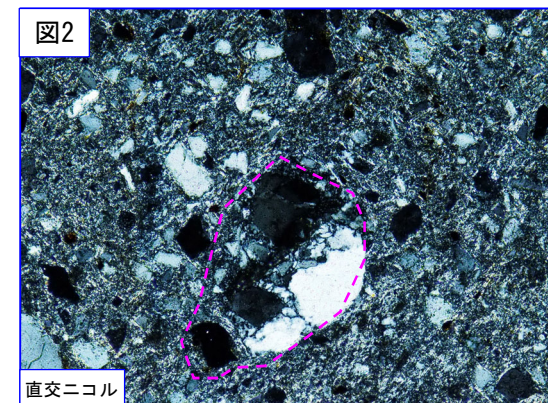
赤矢印: 粘土鉱物が漸移的に増加する。 1 mm



1 mm



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

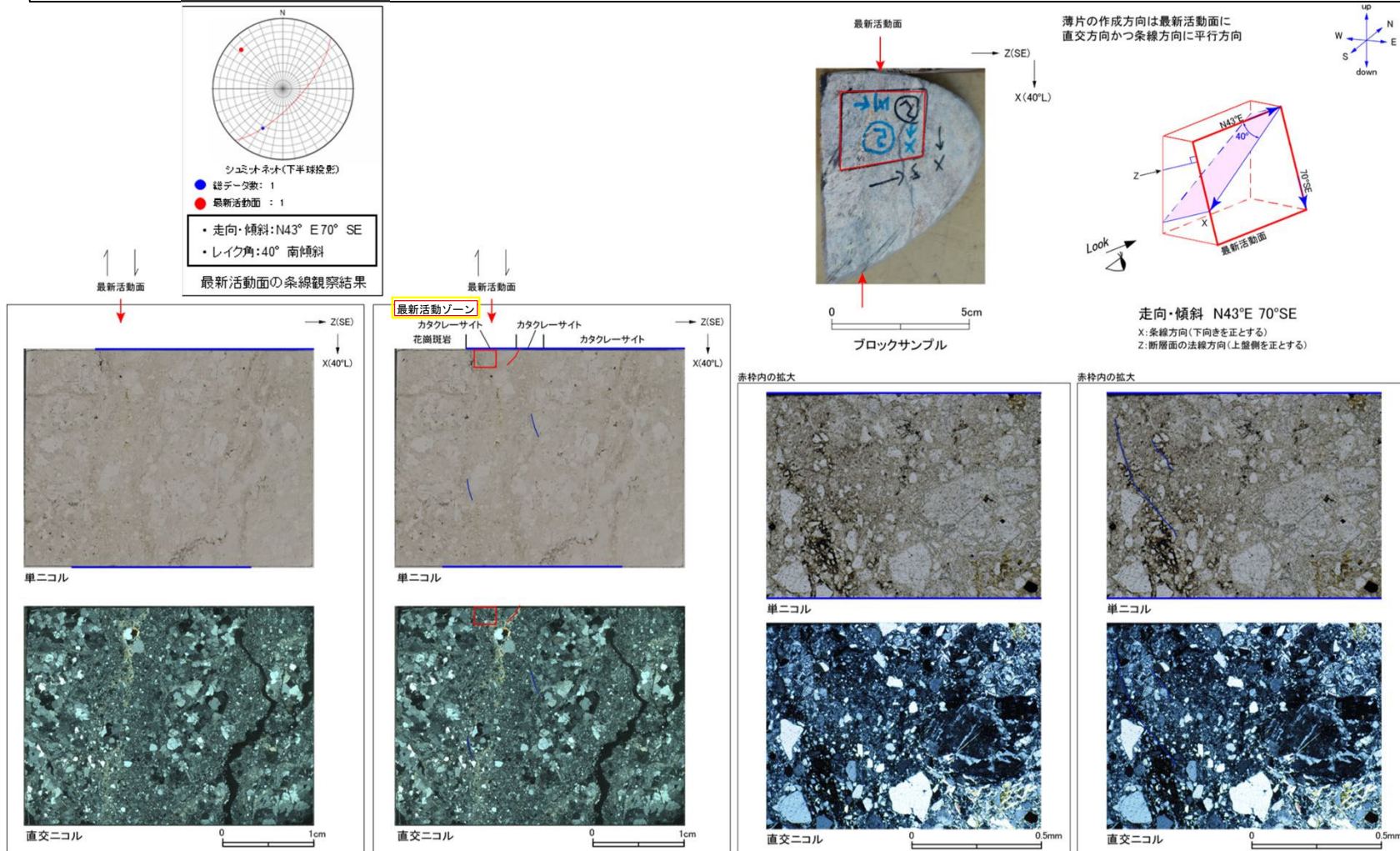


200 μm

# H27-B-1 深度45.36~45.39m 非モデル化破碎部 (1/3)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度45.39m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

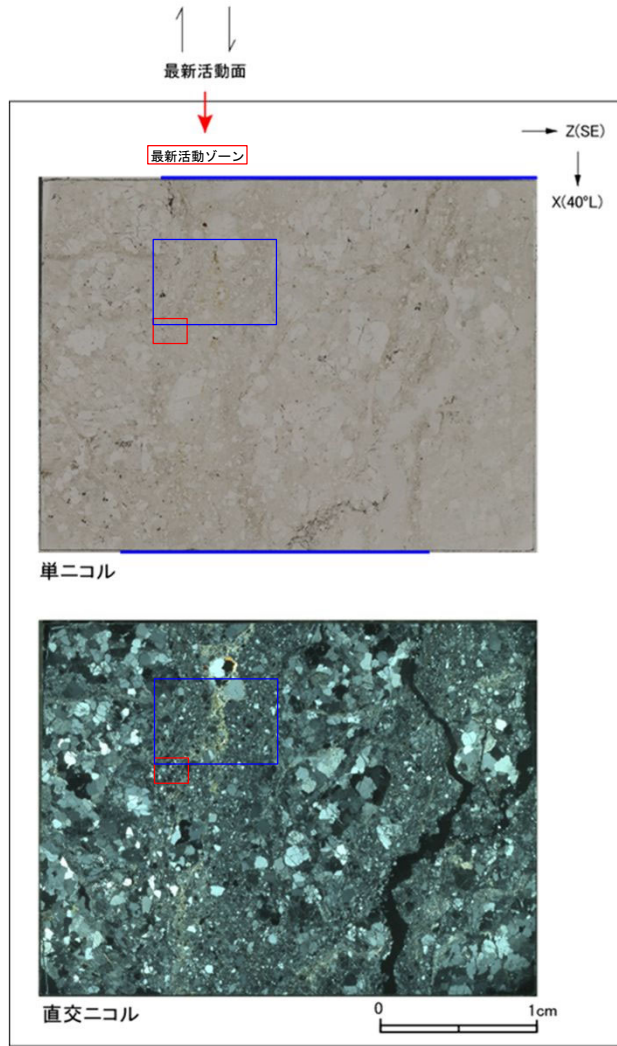
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



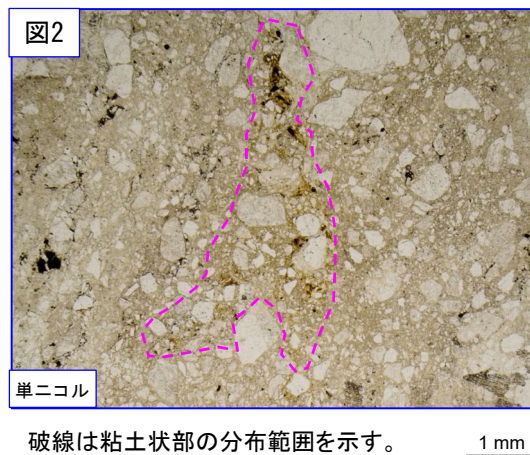
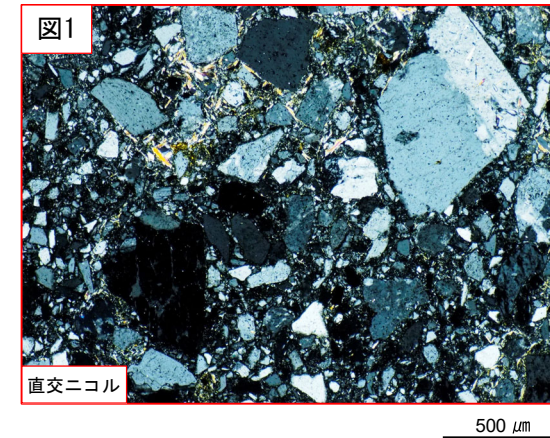
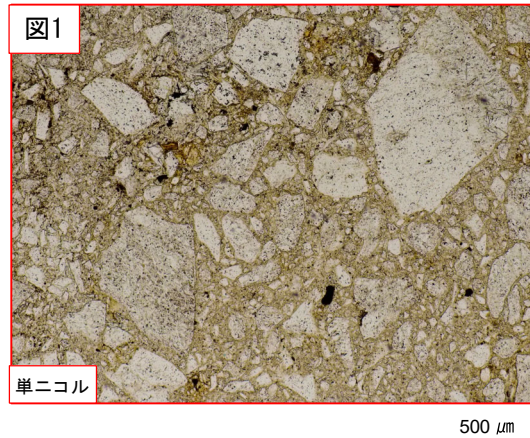


## H27-B-1 深度45.36~45.39m 非モデル化破碎部 (2/3)

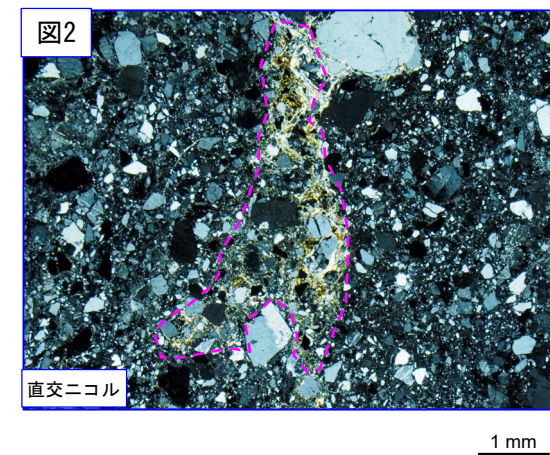
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト

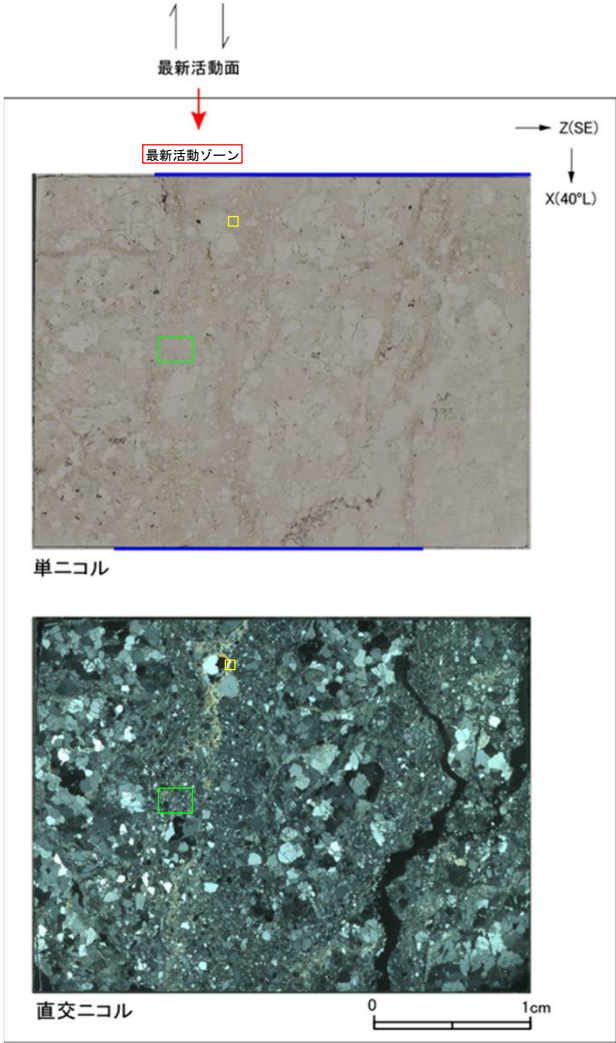


破線は粘土状部の分布範囲を示す。

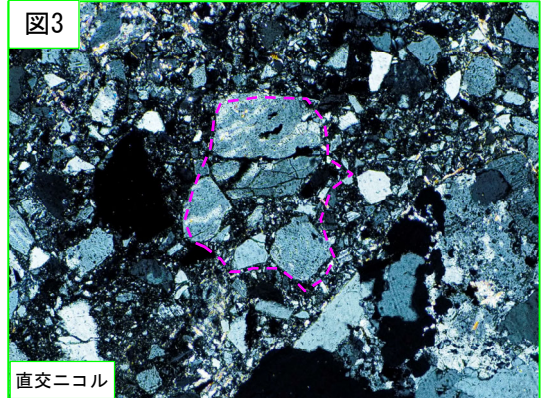
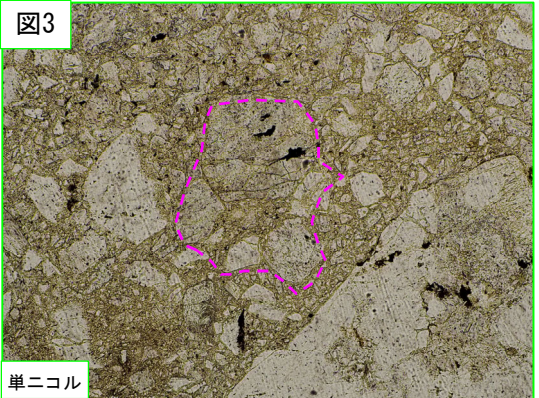


# H27-B-1 深度45.36~45.39m 非モデル化破碎部 (3/3)

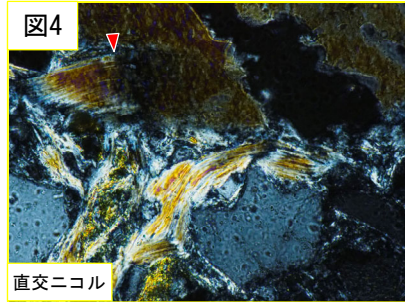
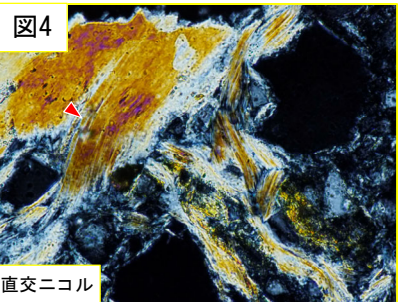
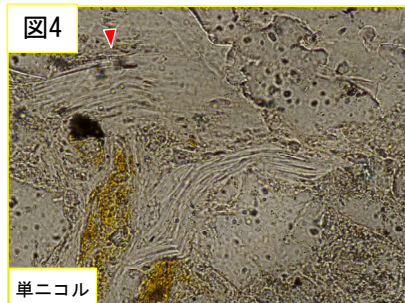
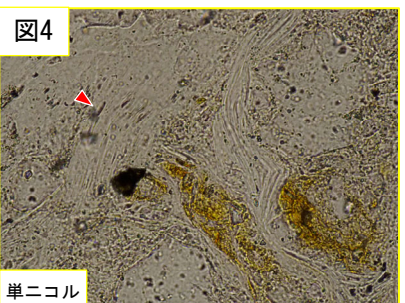
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。 500 μm



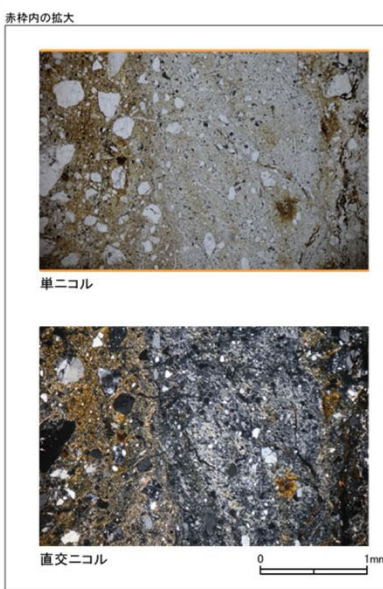
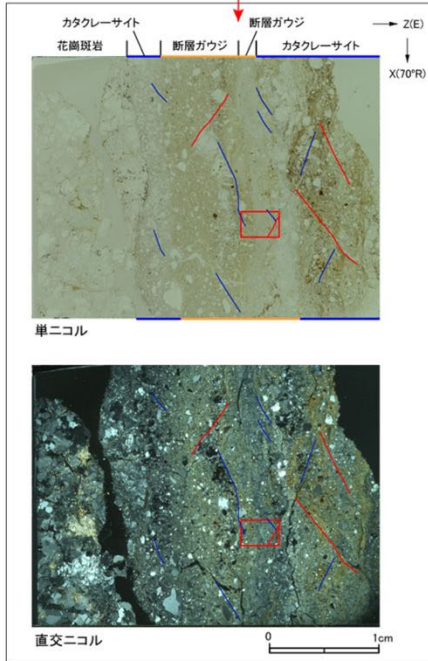
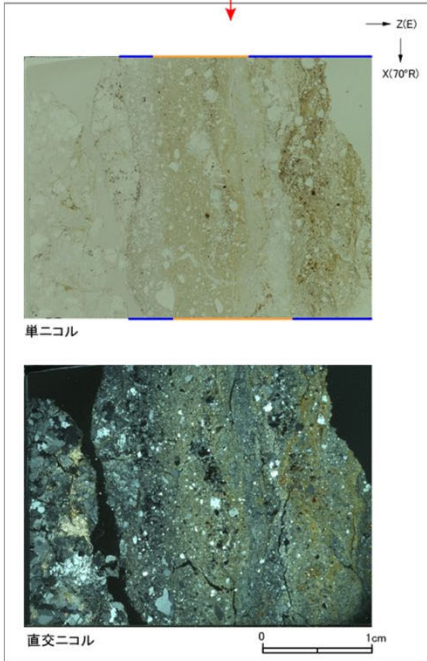
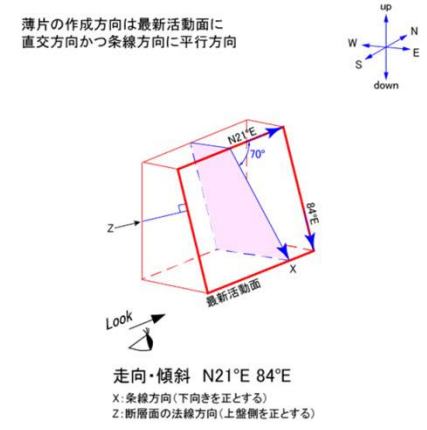
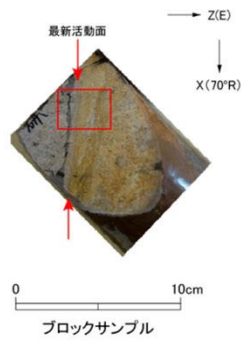
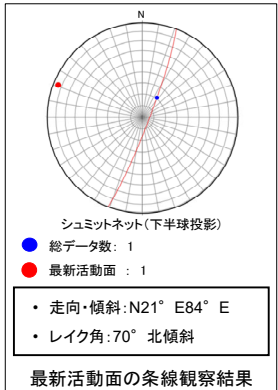
→  
 ステージを時計回りに  
 約45度回転

赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

# H27-B-1 深度47.40~47.51m 非モデル化破砕部 (1/2)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.40m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面